

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	イオンリテールストア株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
工場等の名称	イオンリテールストア株式会社 イオン名古屋東店
工場等の所在地	愛知県名古屋市名東区猪子石原2-1701
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	大規模小売店舗
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月30日 ~ 令和5年10月28日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) イオン名古屋東店 サービスカウンター
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	070-5563-6034		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、地球温暖化対策をはじめとする地球環境・保全の重要性を認識し
全社一丸となって取り組みます。

- (1) 継続的な環境改善
P D C A サイクルに基づく環境施策の継続的な改善。
- (2) 省資源、省エネルギー活動の推進
事業所で使用する、電気・ガス・エネルギーを令和 6 年度までには
令和 3 年度比 5 %削減を図る。
- (3) 廃棄物の発生の抑制・リサイクルの推進
- (4) 従業員への環境教育と、社外への環境コミュニケーションの推進

(2) 地球温暖化対策の推進体制

当社は、地球温暖化対策をはじめとする地球環境・保全の重要性を認識し
全社一丸となって取り組みます。

- (1) 継続的な環境改善
P D C A サイクルに基づく環境施策の継続的な改善
- (2) 省資源、省エネルギー活動の推進
事業所で使用する、電気・ガス・エネルギーを令和 6 年度までには
令和 3 年度比 5 %削減を図る
- (3) 廃棄物の発生の抑制・リサイクルの推進
- (4) 従業員への環境教育と、社外への環境コミュニケーションの推進

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,043	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,043

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	2,220	t-CO ₂	2,109	t-CO ₂	2,043	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			5.0	%	8.0	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量								
削減率（対基準年度）				%		%		%
原単位あたりのみなし排出量								
削減率（対基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

・地球温暖化対策としての意識は当然保持していたが、令和4年度においてはやはり電気料金高騰による節電に迫られた結果、温室効果ガス総排出量は大幅に削減できた。
 ・併せて、店内冷蔵ケースを入れ替え、省エネ効果が高まったことにもよる。
 ・ガソリンについては、ネットスーパー配送のうち2台分を自社でまかなっていたが、完全委託に変更したことにより減少している。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標となる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>・ 駐車場照明のLED化を計画していたが、令和4年度、5年度については実施できず。次年度計画的に進めていく。</p>

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>毎月8日のライトダウンキャンペーン、お客さまにご迷惑の掛からない範囲で実施。</p>
